

第4期川崎区区民会議すこやか・共に生きる部会進捗状況報告

| しんぎてーま 審議テーマ | これまでに出された意見 |
|--|---|
| <p>1 地域における健康の推進</p> <p>(1)神奈川県は、予防接種、住民健診の受診率が低く、川崎区はさらに低い状況にある。</p> <p>(2)接種率・検診の受診率が低いのは、外国人市民が多いという理由だけではない。</p> | <p>ア 子どもが高学年になるほど予防接種の受診率が下がる原因を把握する必要がある。</p> <p>(ア)子どもが高学年になるほど塾や部活等で忙しくなり、親と子どもの都合が合わないなどの理由で予防接種の受診率が下がるのではないかな。</p> |
| <p>2 子どもを地域で支える、子どもの生きる力</p> <p>(1)子どもの生きる力をつけるために、相談できる場所等、子どもを支える環境づくりが必要である。</p> <p>(2)世代間交流の場を作ることが子どもたちの生きる力をつけることにつながる。</p> | <p>ア 子どもの親以外の大人と関わる機会が必要である。</p> <p>(ア)子どもの生きる力をつけるきっかけとして、子どもが親以外の大人と関わる機会が重要だと思ふ。特に高学年になると親以外の大人と関わる機会が少なくなる傾向にある。</p> <p>(イ)例えば囲碁や将棋のグループが、子どもたちに囲碁や将棋の体験会等の開催に協力することは可能である。このようなことをきっかけに子どもの親以外の大人と関わる機会をつくることのできる。</p> <p>イ 区内の施設で世代間交流プログラムを実施する。</p> <p>(ア)こども文化センター、いこいの家、子育て支援センター等のような施設で年に1回で良いので世代間交流のためのプログラムを実施することが良いと思ふ。市内の全ての区で行うことは難しいので、まずはモデル地区をつくってやってみることが良いと思ふ。</p> <p>(イ)地域のいろいろな団体が連携して、世代間交流プログラムを実施する組織をつくることが必要である。</p> <p>ウ いじめや不登校の状況を把握する必要がある。</p> <p>(ア)川崎区では、学校でどのくらいいじめや不登校が発生しているのか、いじめや不登校の原因はどのようなものがあるのか知る必要がある。</p> <p>エ 他都市の取組事例を参考にする。</p> <p>(ア)京都府のひきこもりの子どもへの取り組みを参考にしたらどうか。→京都府ひきこもり相談支援センターの事例検討</p> |
| <p>3 外国人市民も住みやすいまちづくり</p> <p>(1)予防接種や住民健診の案内が外国人市民にとって専門用語が多く、わかりづらい。</p> <p>(2)外国人市民に十分な情報が伝わっていない。</p> <p>(3)外国人市民へ十分な情報が行き届く仕組みが必要である。</p> | <p>ア 外国人市民へ情報提供する現場の人から課題を聞く必要がある（予防接種や健康診断情報も含む）。</p> <p>(ア)行政の施策として外国人市民への情報提供をしっかりとやっていると思うが、十分に伝わっていないのが現状である。このため、区役所の窓口職員等に外国人市民へ情報を伝えるときにどのようなことに苦労していくか聞いてみたい。</p> <p>イ 外国人市民が多く集まるところで情報提供を行ったらどうか。</p> <p>(ア)教会以外に外国人市民が多く集まるところは、どのような場があるか知る必要がある。</p> |

| こんご けんとうじこう 今後の検討事項 |
|---|
| <p>① 予防接種に関するアンケートについて</p> <p>ア 調査概要（アンケート対象者、サンプル数、配布・回収方法、内容等）について、検討していく。</p> <p>イ 今後のスケジュール</p> <p>6月：アンケートの配布</p> <p>7月：アンケートの回収、集計、分析</p> |
| <p>② 他都市の取組事例等について</p> <p>ア 子ども支援策について、引き続き他都市の先進事例を調査していく。</p> <p>イ 子どもを地域で支えている主な活動団体で情報を共有し連携を図っていく。</p> |
| <p>③ 外国人市民も住みやすいまちづくりについて</p> <p>ア 外国人市民が困っていることについて、「1 地域における健康の推進」「2 子どもを地域で支える、子どもの生きる力」のテーマの中で、外国人市民への情報伝達について、検討していく。</p> <p>イ 外国人市民への情報提供について、区役所の窓口の職員等に調査を行っていく。</p> |